

# 子どもたちの健康を見つめて

1991-1992年 2つの街の健康診断レポート



E.Gordey, Y. Komlikov, S.Ten, L.Artishevskaya, L.Grak, T. Khomichuk (ミンスク医科大学)

# 1,605人の子どもたちに出会うための旅

1991年から1992年にかけて、ミンスク医科大学から様々な専門医たちがチームを組み、ゴメリ州の2つの街へ出発しました。彼らの目的は、子どもたちの健康状態を総合的に確認し、守ることでした。



## 対象となった子どもたち（合計 1,605名）

就学前の子ども  
（幼稚園児）：  
434名



学童  
（小学生以上）：  
1,177名



## 訪問した2つの街

ホイニキ町：  
1,066名



ヴェトカ町：  
539名

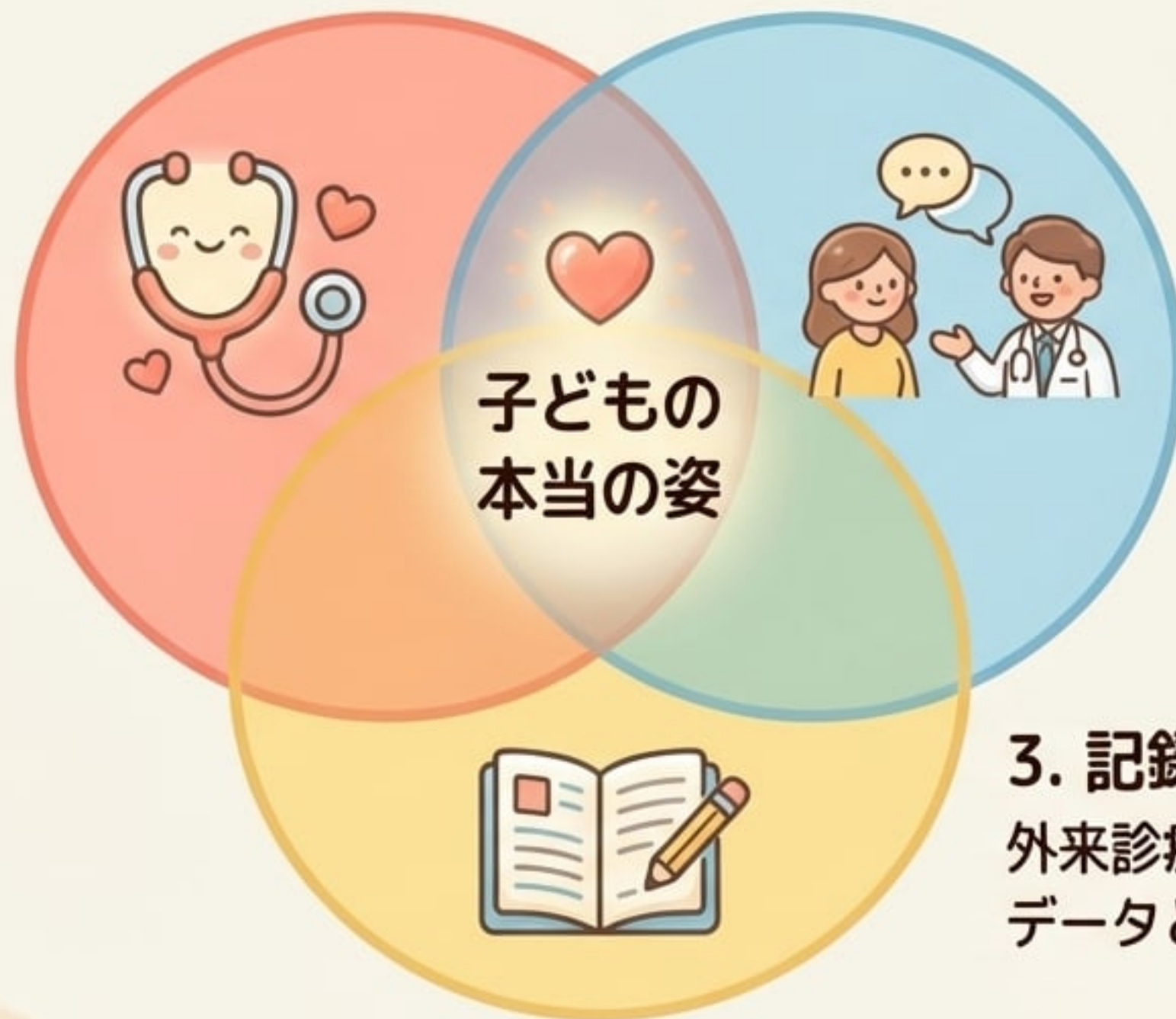


# ただ診察するだけでなく、日々の「声」を聴くことから

正確な健康状態を知るために、医療チームは一方向的な検査だけを行うことはしませんでした。子どもたちの日常を一番よく知る大人たちの声に耳を傾け、過去の記録と照らし合わせました。

## 1. 直接の診察

小児科、内分泌科、外科など、多角的な視点からの総合的な予防検診。



## 2. 周囲への聞き取り

幼稚園や学校の先生、そしてご両親への丁寧な質問とヒアリング。

## 3. 記録の確認

外来診療録（過去のカルテ）のデータと今回の結果のすり合わせ。

# 2つの街で見えた、まったく逆の「サイン」

検診のデータをまとめると、内臓疾患を抱える子どもたちの割合（罹患率）に大きな特徴が見えてきました。ホイニキとヴェトカでは、サポートを必要としている「年齢層」が真逆だったのです。

## ホイニキ

(小さな子どもにサインが多い)



## ヴェトカ

(大きくなった子どもにサインが多い)

就学前児童: 17.52%



# ホイニキの街：小さな子どもたちの「心臓」からのSOS

ホイニキでは、特に幼稚園に通う小さな子どもたちにおいて、心臓や血管のトラブルが多く見つかりました。その割合は、学童童の約2倍にのぼります。また、年齢を問わず、生まれつきの心臓の病気（先天性心疾患）の割合が高いことも特徴です。



## 1. 心臓・血管の病気

就学前



23.5%



学童



12.56%

## 2. 先天性心疾患

就学前



4.2%

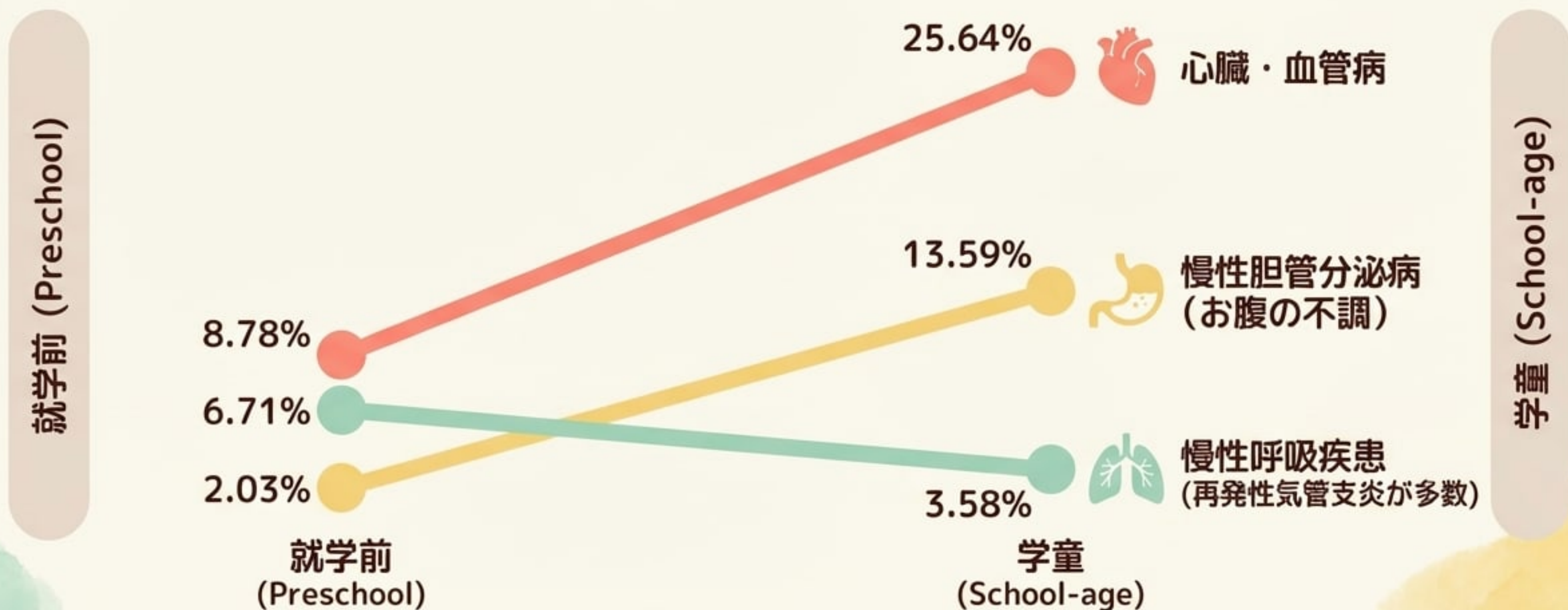
学童



0.9%

## ヴェトカの街：少し大きくなった子どもたちの「呼吸」と「お腹」の不調

一方ヴェトカでは、学童期になると「血管の働きの乱れ（血管ジストニア）」が増えるため、心臓・血管系の数値が逆転します。さらに特徴的なのは、「長引く気管支炎」などの呼吸のトラブルと、胆道系（お腹の消化を助ける働き）の病気が異常に高く記録されたことです。



## 見過ごされていた病気を心病気を見つけ出すために

丁寧な検診は、隠れていた重大な真実を明らかにします。実は今回の訪問前、ヴェトカでは「先天性心疾患（生まれつきの心臓の病気）」の子どもは1人も登録されていませんでした。ミンスクからの医療チームでさえ、最初は気づくことができませんでした。しかし、決して諦めず追加の検査を実施した結果、初めてその症状を発見することができたのです。



“追加の機器検査を行うまで、  
誰にも見つけられなかった”

# 街の『個性』を知ることが、子どもを守る第一歩

同じ地域の近くの街でも、子どもたちの健康のサインは全く異なります。画一的な医療ではなく、その街と年齢に寄り添った個別のケアが必要です。

	ホイニキ	ヴェトカ
最もケアが必要な時期	就学前（小さな子ども）	学童（少し大きくなった子ども）
主な健康のサイン	 心臓・血管のトラブル、先天性疾患	長引く気管支炎、血管の働きの乱れ、お腹（胆道系）の不調、隠れた疾患  

医療データはただの数字ではなく、子どもたち一人ひとりが発している声です。その小さな声に気づくことこそが、本当の予防医療の始まりです。

